

2021年12月13日

報道関係者各位

株式会社読売新聞グループ本社
株式会社読売巨人軍
株式会社東京ドーム
三井不動産株式会社

東京ドームにご来場されるすべての皆様に新しい観戦体験を

22年3月稼働に向け、過去最大規模のリニューアルとDX(デジタルトランスフォーメーション)を実施

株式会社読売新聞グループ本社(代表取締役社長:山口 寿一)、株式会社読売巨人軍(代表取締役社長:今村 司)、株式会社東京ドーム(代表取締役社長:長岡 勤)、三井不動産株式会社(代表取締役社長:菰田 正信)の4社は、各社の知見を集結し、プロ野球・読売ジャイアンツの本拠地である東京ドームにおいて過去最大規模のリニューアルを実施します。これまでの約4.4倍の面積となる国内最大級のメインビジョンの新設や、入場ゲートおよびコンコースのデザイン刷新、多様な観戦スタイルに対応した新たな観客席の設置に加え、完全キャッシュレス化や顔認証技術の導入などのDX(デジタルトランスフォーメーション)を行い、ご来場いただく皆様に「ジャイアンツの世界を五感で、存分にお楽しみいただく、新しい観戦体験」をご提供できるよう取り組んでまいります。2022年3月のオープン戦からの稼働開始を予定しています。

日本最大級のメインビジョンと外野フェンス上部リボンビジョンを新設し、
迫力ある映像演出を実現します。

入場ゲートおよび場内コンコースのデザイン刷新と
デジタルサイネージの導入により、没入感のある体験を提供します。

観客席の新設、増設およびプレミアムラウンジのフルリニューアルにより、
多様な観戦スタイルときめ細やかなサービスを提供します。

スイートエリアが
「THE SUITE TOKYO」
としてフルリニューアル

場内の完全キャッシュレス化と
顔認証技術の本格導入

演出アトラクションや
場内各種サービス等の刷新
(今後、順次発表を予定)

世界トップレベルの
清潔・安全・快適なスタジアム
を目指す取り組みの継続

OUR NEW EXP.

2022年3月 スタート

2020年から取り組んでいる、新型コロナウイルス感染予防のための施策「世界トップレベルの清潔・安全・快適なスタジアムを目指して」は、ご来場されるすべての皆様に安心して東京ドームでの試合をご観戦いただくために、引き続き対策を徹底してまいります。また、株式会社東京ドームは、今回のスタジアムでの大規模な改修を手始めに、東京ドームシティ全体をより魅力ある街へと変貌させるべく、今後も継続的な整備、リニューアルに取り組んでまいります。

<今回の取り組みについての特設サイト> <https://www.giants.jp/G/sp/dome-renewal/>

OUR NEW LED VISION -新しいLEDビジョン-

1. 日本最大級のメインビジョンおよび外野フェンス上部リボンビジョンを新設し、迫力ある映像演出を実現



メインビジョンイメージ図(正面)／提供:竹中工務店

*本リリース内のすべての完成予想図は計画段階の図面を基に描き起こしたもので、施工上の都合等により変更となる場合があります。

メインビジョン単体の面積としては国内スタジアムで最大規模となるフルカラーLEDメインビジョンが誕生します(横幅約125.6m、面積約1,050㎡)。従来のメインビジョン(約238㎡)と比較して面積は約4.4倍に拡大し、画質(画素の細かさ)の面においてもメインビジョンとしては国内プロ野球場最高レベルとなり、高精細映像を使った迫力ある映像演出をお楽しみいただけるようになります。

メインビジョンとともに導入する送出制御システムにより、音楽や照明と連動した映像や静止面の演出表現、アニメーションなどの動きを交えた様々な特殊効果のほか、後述の外野フェンス上部リボンビジョンや場内コンコースのデジタルサイネージと連携したコンテンツ発信も可能となります。

なお、当初、2021年シーズンオフ・2022年シーズンオフの2期に分けた改修を計画していましたが、工事期間を短縮します。

■メインビジョンの概要

スクリーンサイズ: (右翼から左翼に伸びる上段横長部分) 横約125.6m×縦約7.5m

(中央下段部分) 横約20m×縦約5.4m 合計面積約1,050㎡

画素ピッチ: 10mm 発光方式: SMD方式

解像度: (右翼から左翼に伸びる上段横長部分)12,560pix×750pix (中央下段部分)2,000pix×540pix



メインビジョンイメージ図(ライト方向より)／提供:竹中工務店

上記のメインビジョンに加え、東京ドームとして初めて、ライト側とレフト側の外野フェンスそれぞれにフルカラーLED の映像送出装置(リボンビジョン)を設置します。リボンビジョンは両翼ポール傍から右中間・左中間に向かって外野フェンス上端に帯状に取り付けられ、横幅は2面合計で約107mに達します。約4mの外野フェンス高に対して上部約3分の1にあたる1.28mがリボンビジョンとなり、鮮やかな色彩で映し出した演出映像をメインビジョンと連動して送出することで、より臨場感の高まる観戦体験をお届けします。

■外野フェンス上部リボンビジョンの概要

スクリーンサイズ(片側): 横 53.76m×縦 1.28m、面積 68.813 m² 画素ピッチ: 10mm

発光方式: SMD 方式 解像度: 5,376pix×128pix



メインビジョンとリボンビジョンの全体イメージ図/提供: 竹中工務店

また、東京ドーム場内のLED照明器具約650台をDMX(DMX512)連動によって制御するシステムも導入します。DMXは照明器具の調光などの制御を行うための通信規格で、これに連動したシステムを構築することで、メインビジョンの映像や音響と連動させた照明パターンの再生が可能となり、躍動感ある球場内演出が実現できるようになります。

■DMX連動によるLED照明制御システムの概要

DMX(DMX512): 512チャンネルのデジタル信号を送受信することができる通信規格。DMX連動では、照明器具1台1台を個別に制御できるため、場内のLED照明器具を様々なパターンで点灯、調光することが可能となります。

OUR NEW DESIGN -新しいデザイン-

2. 入場ゲートおよび場内コンコースのデザイン刷新とデジタルサイネージの導入



22 ゲート内エントランス イメージ図

各入場ゲートから観客席に到着するまで、ジャイアンツの世界に没入していただくため、デザインを刷新しデジタルサイネージを導入します。全ゲートを新たなデザインに変更するほか、コンコースには LED ディスプレーやデジタルサイネージを設置。快適で洗練された空間へと生まれ変わります。

■場内コンコースにおける LED ディスプレー、デジタルサイネージの概要

場内コンコース等に約 260 台のデジタルサイネージを導入します。これにより、座席から離れていても、これまで以上に多くのエリアで試合映像や演出映像をご覧いただけるほか、試合展開にあわせて場内サイネージを特定の演出映像で一斉表示するといった送出制御も可能となるため、球場全体の一体感をより高める企画が実現できるようになります。

内野 22 ゲートと外野 25 ゲートのエントランスには、大型 LED ディスプレーが設置され、迫力ある映像の送出が可能となります。東京ドームのメインゲートである 22 ゲートでは、大型 LED ディスプレー3 面(横 6.5m×縦 3m が 1 面と、横 5m×縦 3m が 2 面)に加えて、16 本の天井 LED ディスプレーが設置され非日常的な球場空間をより一層お楽しみいただけます。ジャイアンツファンの専用ゲートである 25 ゲートでは、横 9m×縦 2.5m の大型ディスプレイで様々なジャイアンツコンテンツを表現し、入場直後のお客様をお出迎えします。



2 階コンコース イメージ図

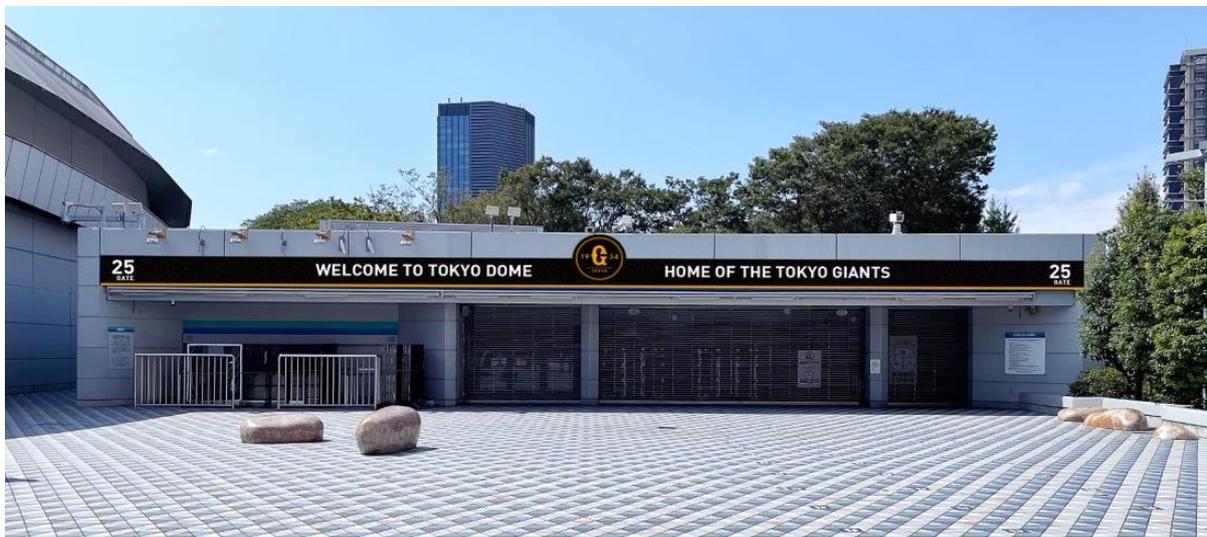


25 ゲート内エントランス イメージ図 (LED ディスプレーは図の右部分)

■ライトスタンドへの入場ゲートである 25 ゲートのデザインを刷新

今回のリニューアルでは、各入場ゲートのデザインも一新します。なかでもジャイアンツファンの皆様がライトスタンドへと入場される 25 ゲートは、ジャイアンツカラーを施し、中央にプライマリーマークを装飾して象徴的なゲートへと刷新します。

*その他のゲートのデザインは後日詳細を発表予定。



25 ゲート外観 イメージ図

場内コンコースおよび各ゲート等のデザイン監修：三井デザインテック株式会社

OUR NEW SEATING -新しい観客席-

3. 観客席の新設、増設およびプレミアムラウンジのフルリニューアル



ニューノーマルな時代の中で、野球の観戦スタイルも多様化しています。時代に合った様々な付加価値を各観客席エリアや座席自体に備えることで、お客様のニーズにお応えするだけでなく、新しい野球の楽しみ方もご提供します。今回のリニューアルでは、グループ席の新設や既存エリアの拡張、改装を実施します。座席の形状や材質に個性を出すだけでなく、各席種での観戦体験をイメージした付帯サービスまで設計し、ユニークさを追求しました。お客様が目的に合った座席をお選びいただきやすくなるとともに、これまでの東京ドームでは体験できなかった、より快適な観戦環境もお届けします。

■観客席の新設

観戦スタイルの多様化に加え、感染対策も起因し、小規模グループで観戦を楽しむ需要が高まっています。今回のリニューアルでは、場内の4か所に定員数や専有面積、付帯設備などで特長をつけたグループ席を400席新設します。

① THE 3rd PLATINUM BOX (ザ サード プラチナ ボックス)

白を基調としたL字のソファを1階席3塁側スタンド内に配置した、寛ぎながら観戦ができる4人定員のグループ席です。座席には、テーブル、試合の中継映像用モニター、スマートフォンなどを充電できる電源も備え付けます。熱気に包まれたスタンドの中で、一線を画した高級感と上質なサービスをご提供します。

席数：4人席×18区画 計72席

1区画の広さ：

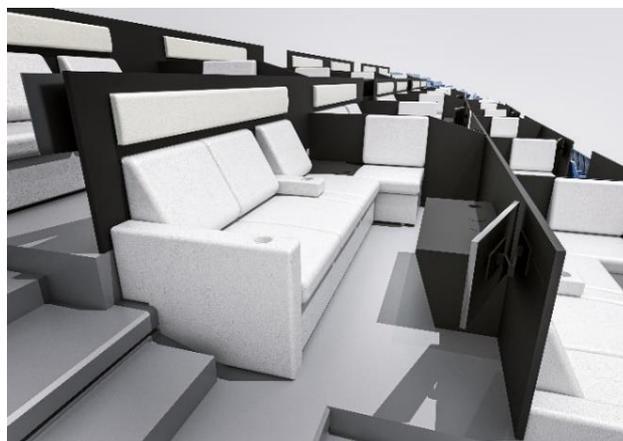
縦1600mm(一般席の2列分)×横2500mm

座席サイズ：(3人席)幅1920mm×奥行(座面)

550mm×高さ830mm (1人席)幅550mm×奥行

(座面)460mm×高さ830mm

料金等は読売ジャイアンツシーズンシートサイト
(<https://giants-seat.jp/>)にてご確認ください。



② SKY TERRACE (スカイ テラス)

2階席の前方ブロックに位置する、クッション性のある座面がついたベンチソファタイプのグループ席です。グループ観戦がしやすいように周囲を木目調の仕切りで囲い、前方にはお食事やお飲み物を広げて食べられるカウンターを設置。ご家族同士やご友人同士でカジュアルに野球観戦をお楽しみいただける空間です。

席数：4人席×44区画

5人席×4区画 計196席

1区画の広さ(4人席)：

縦1105mm(一般席の1.5列分)×横2500mm

座席サイズ(4人席)：

幅2350mm×奥行440mm×高さ805mm

料金等は読売ジャイアンツシーズンシートサイト
(<https://giants-seat.jp/>)にてご確認ください。



③ MASU CABANA (マス カバナ)

2階コンコース MASU SUITE(マススイート)の並びに位置する半個室のグループ席です。前方にソファセット、後方にカウンター席を配置したレイアウトで、“リゾート”をコンセプトにした内装やインテリアを設えます。壁に仕切られたプライベートな空間の室内には、試合中継映像用モニター、スマートフォンなどを充電できる電源、コート掛けなどを備え付けます。ビーチサイドにあるプライベートスペース「カバナ」のように、リゾートさながらのリラックスした気分で観戦しながら、グラウンドの臨場感も感じられる座席です。

席数：4人席×8区画

6人席×6区画

8人席×2区画 計84席

料金等は読売ジャイアンツシーズンシートサイト
(<https://giants-seat.jp/>)にてご確認ください。



④ CRAFT COUNTER (クラフト カウンター)

2階コンコースの外野寄りに位置する、ペア観戦用のカウンター席です。厚みのあるカウンターには真鍮の席番プレートをあしらひ、座席には飾り鉾を施すなど、クラフトマンシップを感じられる仕様とします。カウンターのみ設置した立ち見指定も販売し、お好みに応じて観戦スタイルをお選びいただけます。外野スタンドの熱気を味わいながら、気軽に野球観戦が楽しめる座席です。

指定席エリア(座席あり)： 2 人席×12 区画
 立ち見エリア(座席なし)： 2 人席×12 区画
 計 48 席

座席サイズ(指定席エリア)：

幅 420mm×奥行 350mm×高さ 960mm

カウンターサイズ：

幅 6400mm×奥行 250mm×高さ(天板)1080mm

料金や販売方法は詳細が決まり次第発表します。



■観客席エリアの拡充

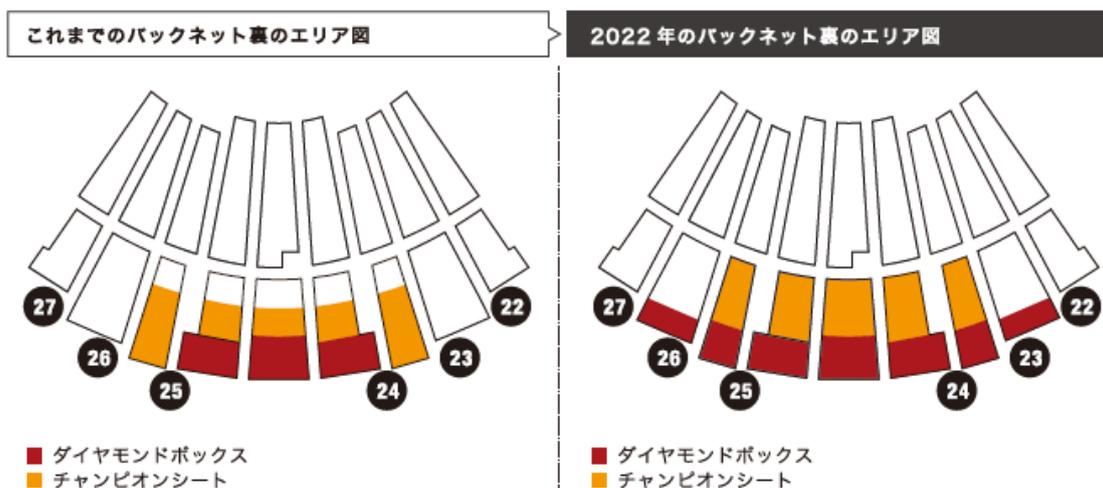
① 車椅子席エリアの増設および付添者用座席のリニューアル

これまで 22 席分(1 塁側:12 席、3 塁側:10 席)を確保していた車椅子席のエリアを、今回のリニューアルで 30 席分(1 塁側:15 席、3 塁側:15 席)に増やし、グラウンドが見渡せる両翼寄りに移設します。付添者用の座席は、ジャイアントのロゴが入ったオリジナル背面で、クッション性能も向上した座席にリニューアルします。



② ダイヤモンドボックスの増設

バックネット裏に位置する最高ランクのシート「ダイヤモンドボックス」を、現在の 160 席から 290 席に増設します。寛ぎながら観戦できる、ゆったりとした前後左右の幅はそのままに、既存のエリアから 1・3 塁側に 2 ブロックずつ拡張します。座席に付属する専用タブレットもリニューアルし、試合中継映像視聴や、フードデリバリーの対象店舗を増やすなど、高品質なサービスをご提供します。また、「チャンピオンシート」の設定位置を変更し、座席数を 321 席から 367 席に増設するなど、バックネット裏後方エリアを一体的に刷新します。



③ マススイートの増設

2020年に、日本の伝統的なグループ観客席である「柵席」をコンセプトに設置した「マススイート」を、ご好評につき1塁側に2部屋増設します。増設する部屋の定員は7人と9人で、マススイートの中でも人気のタイプの部屋です。

④ JCB バックスクリーンクラブ 専用ラウンジの改装

ジャイアンツファンの熱気をダイレクトに感じられるライトスタンドの座席に加え、センターバックスクリーン裏側の専用ラウンジをご利用いただける「JCB バックスクリーンクラブ」。ライト側のラウンジのみグラウンドが見渡せる仕様となっていました。レフト側のラウンジもグラウンドに面した壁をガラス張りに改装し、ライト側同様バックスクリーンからの特別な景色を見渡せるようになります。ビュッフェエリアも拡張し、お食事もお楽しみいただけます。



(左) 現在のレフト側専用ラウンジ。今回のリニューアルでは、ライト側(右)のようにグラウンドが見えるラウンジへと改装します。

■ プレミアムラウンジのフルリニューアル

3階エリアに位置するバルコニー席「プレミアムラウンジ」を、誕生した2008年以来初めて大幅にリニューアルします。お客様をお迎えするエントランスには、正面にインフォメーションカウンターや100インチの大型サイネージを配置。ラウンジエリアは全面リフォームし上質な雰囲気をご提供します。プレミアムラウンジのお客様のみがご利用できる専用バーも新設し、ビュッフェコーナーとあわせてお食事もより一層お楽しみいただけるようになります。また、バルコニー側に並んだ座席と試合中継映像用のモニターも全て新調します。座席は、茶系の柔らかい合成皮革に変わり、肘掛にカップホルダーを備え付け、座面のクッションも厚みが増すなど、高級感に加え機能性も向上した座席となります。



プレミアムラウンジ エントランス イメージ図



料金等は読売ジャイアンツシーズンシートサイト(<https://giants-seat.jp/>)にてご確認ください。

〈プレミアムラウンジ・ビュッフェのリニューアルおよび料金改定について〉

リニューアルに合わせ、ビュッフェメニューも刷新します。ビュッフェコーナーに新たに設けるライブキッチンでの後樂園飯店料理長監修「ふかひれ入り汁そば」のご提供をはじめ、ホットドッグ、ナチョスといったボールパークをイメージした多彩なメニューを追加し、カップケーキや季節のゼリーなどスイーツも充実したラインナップになります。なお、ビュッフェ券の販売価格は料金改定を行い、当日販売を3,700円とします。

※現行料金:2,700円(税込、当日料金) ⇒ 新料金:3,700円(同)



〈後樂園飯店料理長監修「ふかひれ入り汁そば」が登場〉

今回リニューアルされるビュッフェメニューの目玉の一つが、後樂園飯店料理長である稲飯龍典氏が監修する、「ふかひれ入り汁そば」です。

後樂園飯店名物の「ふかひれの姿煮入り汁そば」と同様、後樂園飯店伝統の中華スープに鶏肉と豚肉からとった濃厚な出汁を加えたスープに、ふかひれの細切りを入れた本ビュッフェ限定の東京ドームホテルオリジナルメニューです。



プレミアムラウンジ ビュッフェゾーン イメージ図

OUR NEW SUITE -新しいスイートエリア-

4. スイートエリアが「THE SUITE TOKYO」としてフルリニューアル

グラウンドを一望できるバックネット裏 3 階エリアに位置する全 28 室のスイート倶楽部を、新たに「THE SUITE TOKYO (ザ スイート トウキョウ)」としてリニューアルします。

THE SUITE TOKYO は、専用のゲートおよび専用フロアを有し、個室でお食事を楽しみながら、野球をゆっくりご観戦いただけるエリアです。今回、エントランス、廊下、各個室、客席のすべてをリニューアルし、ご提供する料理にも新たなメニューを加えて、より上質で、特別な空間としてお客様をおもてなしします。



「THE SUITE TOKYO」ゲート イメージ図



「THE SUITE TOKYO」エントランス イメージ図



「THE SUITE TOKYO」廊下 イメージ図



「THE SUITE TOKYO」個室 イメージ図

OUR NEW PAYMENT SYSTEM -完全キャッシュレス化-

5. 場内の完全キャッシュレス化と顔認証技術の本格導入

東京ドーム場内の全売店、客席販売、場内チケットカウンターなどにおいて、2022年3月から「完全キャッシュレス化」を実施します。2020年からの3ヵ年計画でその環境整備と周知に取り組んできましたが、いよいよ“脱現金”へとシフトします。現金の受け渡しなどで生じる接触機会を減らせることは感染対策の強化につながるほか、売店等でのお客様の待ち時間が短縮されることも期待されます。

完全キャッシュレス化は巨人戦のほか、東京ドームで開催される他のスポーツ・音楽等の催しでも適用します。身軽で多彩なキャッシュレス決済により、より快適でスムーズなお買い物やスタジアム観戦をお楽しみいただけます。なお、場内には「DX サポートデスク」を設置し、初めてキャッシュレスを利用されるお客様等への丁寧なサポートも行っています。

**東京ドームは
完全キャッシュレス化**

現金はご利用いただけません

—
DX サポートデスク

DX サポートデスクでは、キャッシュレスに関するお問い合わせに対応いたします。

**COMPLETELY
CASHLESS**

**OUR
NEW
EXP.**

<完全キャッシュレス化の対象>

売店(飲食・グッズ)、客席販売、場内チケットカウンター、自動販売機、コインロッカー ほか

<多様なキャッシュレス決済方法> *より詳細な情報は後日発表します。

- ・ クレジット決済 (VISA / Mastercard / JCB / American Express / DISCOVER / Diners Club / 銀聯)
※ NFC 対応カード(タッチ決済ほか)も利用可
- ・ 電子マネー:非接触 IC 決済 (交通系 IC / nanaco / iD / QUICPay / Edy / waon)
- ・ 電子マネー:コード決済 (PayPay / d払い / 楽天ペイ / LINE Pay / Alipay / WeChat Pay ほか)

<お客様へのサポート体制>

- ・ 場内に設置する「DX サポートデスク」にて、初めてキャッシュレスを利用されるお客様へのフォローや、キャッシュレスに関する様々なお問い合わせに対応します。
- ・ 電子マネーへの入金(チャージ)には、場内に設置の nanaco チャージ機、交通系 IC チャージ機、セブン銀行 ATM をご利用いただけます。また、お客様には、ご来場前に電子マネーへのチャージをしていただくようご協力の呼びかけを行います。

■ 顔認証入場および顔認証決済の本格導入

2022年シーズンから、東京ドーム巨人戦における入場(チェックイン)や場内飲食物販店舗での決済方法として、事前登録いただいた顔画像による認証を一部の入場レーンおよび店舗にて本格導入します。

2021年3月からパナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社とともに行った、東京ドームでの関係者を対象とした顔認証の入場、および一般来場者(希望者のみ)を対象とした顔認証の決済についての実証実験の結果等をもとに、より快適でスムーズな顔認証サービスを実現するべく準備を進めています。

*顔画像の登録方法など詳細は後日、読売ジャイアンツ公式サイト等で発表します。

6. 演出アトラクションや場内各種サービス等の刷新(今後、順次発表を予定)

上記の施設改修(リニューアル)やDXに加え、東京ドームにおける2022年シーズンからの読売ジャイアンツ公式戦では以下の項目等についても刷新する予定です。

- ・ 上記のメイン・リボンビジョンやDMX連動による照明制御システムを活用した新たな演出および試合前やイニング間のアトラクションのリニューアル。球場内でのサウンド体験の向上
- ・ 場内外飲食店舗の一部リニューアルおよび新定番メニューの開発、選手コラボメニューの充実化
- ・ 場内サービススタッフ(係員の新たな名称)によるお客様サービスの向上策の導入
- ・ 場内サービススタッフのモチベーションアップ施策の導入(従業員満足度(ES)の向上)

7. 「世界トップレベルの清潔・安全・快適なスタジアム」を目指す取り組みの継続

東京ドームにおける新型コロナウイルス感染防止対策とDXについては、今後もハード・ソフト両面で継続的に施策を行い、「世界トップレベルの清潔・安全・快適なスタジアム」を追求していきます。また環境配慮として、場内における各種ごみの総量削減およびリサイクル率の向上にも努めます。2020年7月から取り組んでいる新型コロナウイルス感染防止対策については、下記ウェブサイトもあわせてご覧ください。

<https://www.tokyo-dome.co.jp/dome/g-new-normal/>



以上